

第七回山頭火ふるさと館自由律俳句大会 入選作品一覧

【一般の部】三十九句

- |                                     |             |
|-------------------------------------|-------------|
| 手を繋ぐ児と祖母の歩調が合っている                   | 京都府 桐田 大樹   |
| 茶碗もち「まんま」といったはじめての言葉                | 埼玉県 林 文子    |
| 人は去り月明かりがひとりで歩く夜                    | 愛媛県 和泉元 良彦  |
| もしかして宇宙人かと思う時                       | 茨城県 小笠原 順一  |
| 春愁はインクの瓶 <small>びん</small> に閉じ込めている | 愛媛県 菅 貴久代   |
| 感謝の言葉ほどの温度で新茶汲む                     | 京都府 岸野 由夏里  |
| 逢いたいと手のひら蝶になりたがる                    | 神奈川県 北村 純一  |
| 「おかえり」が温かい冬の夕                       | 神奈川県 小泉 信也  |
| 生まれたてのほっぺにありがとうのキス                  | 徳島県 澤田 典子   |
| 腕相撲負けた親父の息が笑ってる                     | 神奈川県 須山 恵美  |
| また今度そう言ったきりの人ばかり                    | 青森県 高橋 亨    |
| ほしだけ抜いて帰れと大根畑                       | 和歌山県 藤堂 まり子 |
| のびやかに描いた空に秋ひとつ見つける                  | 大阪府 富永 武司   |
| 洗濯日和は心も洗う                           | 徳島県 中上 安妃子  |
| このささやかなへいわなくらいいつまでも                 | 東京都 西林 哲    |
| ゴキブリを打つこんな力があつたのか                   | 徳島県 坂東 典子   |
| 春に鎌を入れる土が語りはじめる                     | 神奈川県 本山 麓草  |
| グチいっぱい聞いてそつと背を押す                    | 熊本県 舛田 美子   |
| 父の背中エネルギーな夏の太陽                      | 三重県 松本 恵美   |
| 幼子の空を飲み干す大あくび                       | 大阪府 吉川 聰    |
| みそ汁の香りがする今日がはじまる                    | 青森県 リんこ     |
| 母の手紙の結びはいつも「祈っています」                 | 大阪府 渡辺 廣之   |
| 連れ合いの着古した部屋着の安らぎ                    | 福島県 浅野 理恵   |
| ブランコの足が空へと伸びていた夏                    | 東京都 稲葉 智子   |
| 川の字で双子の寝息聞ける幸せ                      | 東京都 浦田 八重子  |
| 老いてなお虹の空に心が躍る                       | 滋賀県 近江 薫花   |
| 便利な世の中だ人間がちっ息している                   | 東京都 大野 哲太郎  |
| 年老いたいのちの最期気付くまご                     | 茨城県 小笠原 薫子  |
| 手話の歌うバスは海へゆく                        | 静岡県 尾内 甲太郎  |
| 時間に追い越されながら歩いている                    | 大阪府 草道 久幸   |

病院ではやさしいのね窓辺の霞草  
誰の胸の奥にも手つかずの森がある  
散歩する認知の妻の肩に赤とんぼ  
亡き兄の柱の傷に我が子追いつく  
半分もらいましようか、その不安  
あの日の私はあの日にちゃんと生きている  
会いたいね母さんどこの星に住んでるの  
鍵針の羊の夢をのせて編むニット  
限界集落の曼珠沙華咲き続ける

東京都 椎川 しお  
福岡県 重富 蒼子  
三重県 柴田 修三  
埼玉県 平手 彰夫  
大阪府 堀内 一正  
東京都 ほろろ  
大阪府 松井 詔子  
大阪府 森重 聲  
佐賀県 山崎 泰介

【子どもの部】三十八句

ぼくだけが知る君の海  
手を振って遠ざかっていく君の足音  
仲こじれてむかえる夏の大三角  
ありがとうの一言に勇気がいる私  
慣れない笑顔を赤ん坊に向けた  
まえばがさひとつぬけたらおねえさん  
独りにならないと分からないこともある  
朝の鳥が鳴いてめざめる心地よい日  
僕が泣き君が笑うと僕が笑う  
歩いて歩いて夢へのあしあと  
汚れた手きつと何かの小さな勳章  
足あとだあそこを通ったあかしです  
おにぎりとかップラーメンと母のぬくもり  
喧嘩する口に残った割れた飴  
お弁当には愛という具がつまっている  
負けたってまだ次があったあの頃  
私は流れにさからう一人きりで  
楽しそうなのはプールの浮輪  
努力の汗はいつもより輝いていた

東京都 中3 阿部 勇大  
東京都 中3 永井 彩葉  
大阪府 中3 中川 寛喜  
大阪府 中3 藤森 匠斗  
大阪府 中3 青山 陽咲  
福島県 小1 浅野 真緒  
東京都 中3 安藤 明依  
東京都 中3 江崎 まい  
大阪府 中3 大宮 聖那  
山口県 小5 大村 瑞樹  
大阪府 中3 岡本 愛  
山口県 小5 尾上 瑞季  
大阪府 中3 片山 知香  
大阪府 中3 勘野 航平  
山口県 中2 北田 侑子  
大阪府 中3 西念 七海  
東京都 中3 佐々木 柊  
大阪府 中3 柴崎 友紀  
東京都 中3 信田 琴春

夏に実って秋には枯れてるそれが恋	大阪府	中3	橋本 悠花
一人になって静かにゆれるブランコ	大阪府	中3	堀内 瞬
ほわりと実家の香り日本昔話	大阪府	中3	南 怜花
百合置いて君はもういないはずなのに	大阪府	中3	安野 孝彦
どこまでもいろいろ歩いてつかれたよ	山口県	小5	矢野 久仁彦
お弁当心をこめてありがとう	東京都	中3	山崎 梨緒奈
てでたべてママにおこられたゆでたまご	福井県	5歳	山根木 希采
カラカラ回っているけれど、進んでないよ	大阪府	中3	上田 莉穂
暗い夜道に浮かぶたった一つの街灯	大阪府	中3	岡田 龍乃輔
置き手紙母の愛がしみわたる	東京都	中3	喜納 唯桜
暑い重い地球の苦しきもう限界	東京都	小6	笹山 優奈
ひまわりが太陽向かって歩いてく	山口県	小5	佐田 千弦
曲がり角に便乗して振り返る帰り道	東京都	中3	柴田 優華
やっとやっと はじめて ひとつかてたよ	山口県	5歳	武内 いろは
マスクの下見られるのちよっとくすぐりたい	大阪府	中3	永江 朋花
空はお腹の調子が悪いようで	大阪府	中3	西山 怜来
あじさい撮る君見上げ待つ僕	大阪府	中3	古川 結菜
一歩づつ、一歩づつ、歩きだしたあの日	山口県	小5	三浦 絢成
夏の夕暮れ空 うろこをまとう	大阪府	中3	毛利 龍之介